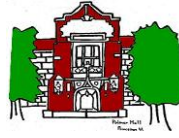


ななかま

プリンストン日本語学校新聞



平成24年度 No.25号

平成24年11月11日

文責 長尾重範

薄氷 食む落葉の 固さかな
さくさくと 雪踏み敷く子 丸まりて

表現学習発表会 13:20~15:10 Science 棟
新1年募集説明会 15:20~16:00 304 教室

入賞おめでとうございます!!

こども絵画作品コンクール

サマンサウルフさんの作品が本選で「銀賞」になり、ルーブル美術館で展示されることになりました。

海外子女文芸作品コンクール

五島功くんが「日本放送協会賞」を受賞し、『地球に学ぶ』に掲載されることになりました。

□ハリケーンサンディの被害

被害の全容が明らかになるにつれ、その大きさに驚くばかりです。百人を超す方々が犠牲になり、浸水による家屋の被害や電線の切断（倒木が原因）による長期停電などをはじめ、多くの財産が失われることになりました。一刻も早い復旧が望まれます。

□大統領選挙投票が11月6日に行われ、オバマ候補（民主党）が再選されました。

「補習校の生徒たち」

プリンストン日本語学校は日本の公立学校ではないので、授業料が必要です。それでも補習校に通うのは、親の子どもへの大きな期待があるからです。我が子の将来にきっと役立つと考える親は、お金を出して子どもを日本語学校に通わせますが、普通なら子どもは小学校の間はあまり日曜日にまで学校に行くのが好きではありません（中学校くらいになると自分の利益になることがわかってくるので自主的に学べる）。ですから、場合によっては、やらされ感からか意欲を欠く気持ちになることもわかります。しかし、本校の子どもたちは違います。

週に1回でも、4時間も5時間も日本語漬けのなかでいると微かな日本語を聞き分けられる力がついてきます。その時に心を開いてがんばり通すことができる人は間違いなく超バイリンガルになる基盤ができるでしょう。

小学部の授業を見ていて、一人ひとりが実に落ち着いていて、自分の目標に向かってがんばっている姿に感動します。どの学年の子どもたちも、真剣なので素晴らしいです。親から言われるからやるのではなく、自分の将来のためにがんばる、または楽しいからやるという積極的な姿勢が立派です。

行事予定表

11月18日 表現学習発表会（2日目）

12月9日 学芸会 学習発表会

「百聞は一見に如（し）かず」（9） Seeing is believing

「包餡機、輸出最前線」

包餡機を輸出するこの会社は、NC州にありました。ほうあんきという言葉はそのときはじめて知りました。ほうあんきとは和菓子やまんじゅうなどにあんを入れる機械です。昔は一つ一つ広げた生地にあんこをくるんで作りましたが、今では土産物店にある和菓子の類はみな機械で大量生産しています。1963年に創業したというこの会社は世界中110ヶ国以上に機械を輸出しています。その機械はだんごだけでなくクロワッサンやメロンパン、ソーセージ入りのパンなど色々なものを作ることもできるそうです。

ものづくりは、いくらよい製品を作っても、販売とその後のアフタケアがよくないと買ってもらえないという難しさを抱えています。多くの競争相手がいるなかでこの会社が大きくなっている理由には、機械の使い方の指導だけではなく、その地方の気候に合わせた生地の作り方の助言までできるという強みがあるそうです。生地材料である小麦粉などは湿度や気温の変化に敏感なので、それぞれの地域にあった作り方があるのです。この会社の強みはハード（機械）とソフト（作り方マニュアル）の両方を一緒に販売していることにあります。

他が真似できない優れた機械を作り、きめの細かいメンテナンスができる日本企業が世界で高い評価を受けていますが、この会社も日本が誇るべき企業の一つであると言えるでしょう。自動車やカメラのような日常的に目に見えるもの以外にも、ベアリング（回転体を支える球体等）やセラミックなどさまざまな分野の日本製品が高い世界シェアを占めていることを私たちはあまり知りません。

日夜懸命に努力している多くの人々のことを知らなければいけないと思いました。

